

# 洞山古墳(伊勢崎市)

前方の洞山と呼ばれる丘陵上に立地する墳丘長26mの6世紀初頭築造の前方後円墳





右手から回り込んで進むと、前方に説明板が立っているのが見えた

 video





その手前には大きな石が・・・

[video](#)



## 牛石の伝説

昔、源義経は京を連れ奥州へ落ち行く時、東道

(あずまみち)を通ったと云われます。

義経は少数の従者と黒い大きな牛一頭をつれていた。粕川の岸に来た時、川は大洪水だった。

川を無事に渡ることを不安に思い、試しに牛を川にいれてみた。牛は激流の中に姿を消した。

その日は川を渡るのを止め近く民家に一泊した。翌朝水が少なくなった川辺に、水死した牛が伏せる様に巨岩となり「にぐら」「つづら」「びょうぶ」も皆巨石と化した。

義経はこれに牛の化身ならん石の名を「牛石」と呼び「長く吊い候」と粕川を東に渡り去ったとのことです。

義経主従の泊った夜は、陰暦十月九日でした。村人は一日早い十日夜を祝い、一行を歓待して旅の無事を祈念したとのこと。以来当地では、九日夜を祭る習はしが続いております。



これが牛石ということのようだ





近くにはこんな大石も・・・





その道を更に進むと、竹林が生い茂っていて、その中に古墳らしきマウンドが見えた！

[video](#)





左手の民家の犬が吠えているので、右手に回り込みながらそのマウンド近くに登ってみた





これが洞山古墳で、前方部の後ろから後円部方向を見たところ

[video](#)





右手に回って括れ部を見たところ/左手が前方部、右手は後円部

[video](#)





左手の前方部





右手の後円部





左手から前方部(正面)～後円部(右奥)と全体を見たところ

[video](#)





これは後円部の後ろから前方部方向を見たところ

 video





そこから後円部に登ったみたところ

[video](#)





これは前方部から後円部を見たところで、括れ部の先が大きく抉れている

[video](#)





抉れている場所に横穴式石室が開口していた





真上から見たところ





横から見たところ





正面から見たところ

[video](#)





狭いが、寝そべて中を覗いて見よう





す、す、素晴らしい！/赤色顔料が残っている！





左手を見たところ





右手を見たところ





洞山古墳のすぐ脇には石碑が立っていた

 video









この正面の細い道を進むとこの石碑に行けるようになっていた

 video





その細い道を進むと、な〜んだ、右手に洞山古墳があるじゃない！

 video



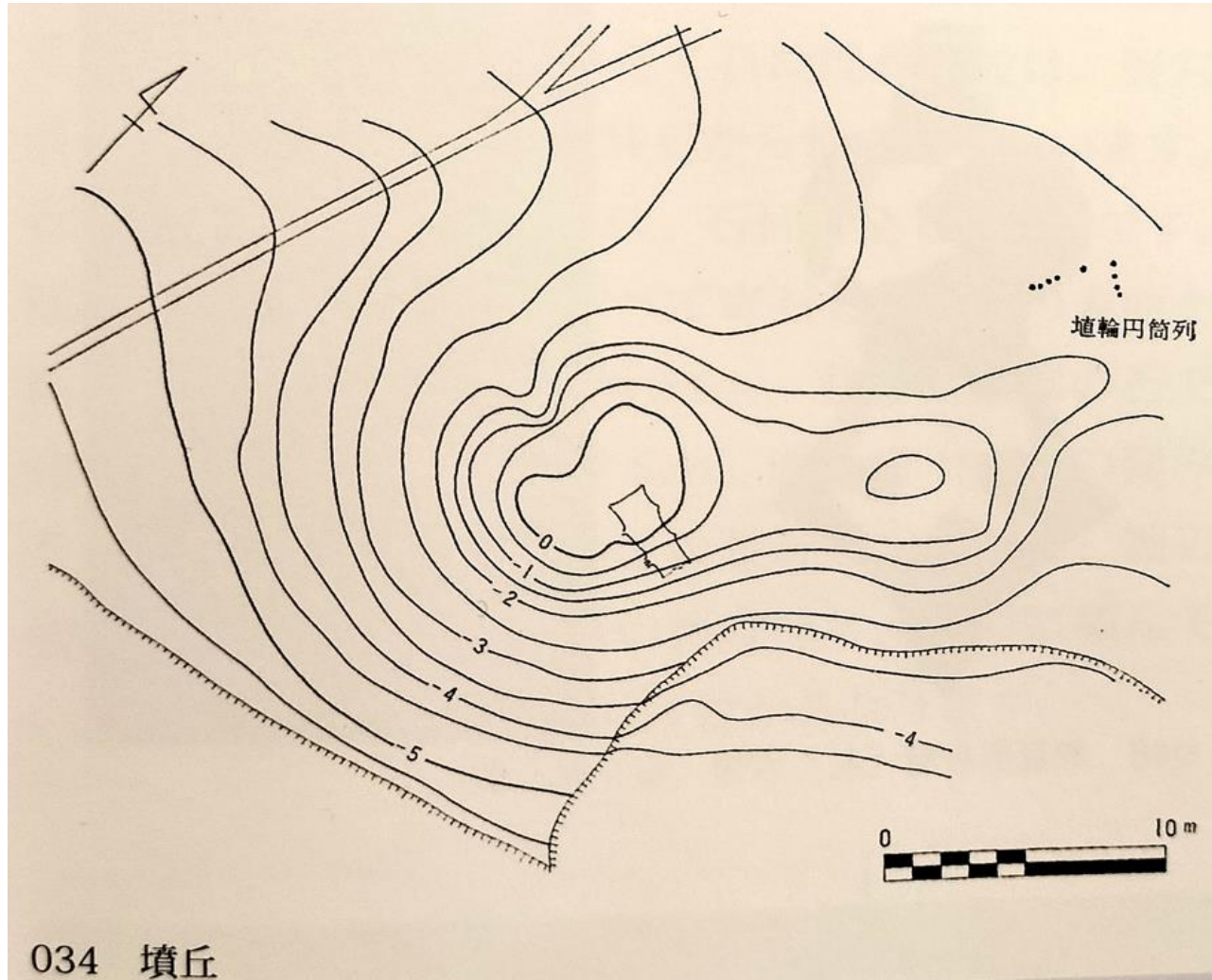


# 洞山古墳（どうやまこふん）

（上毛古墳総覧：赤堀村53号墳）

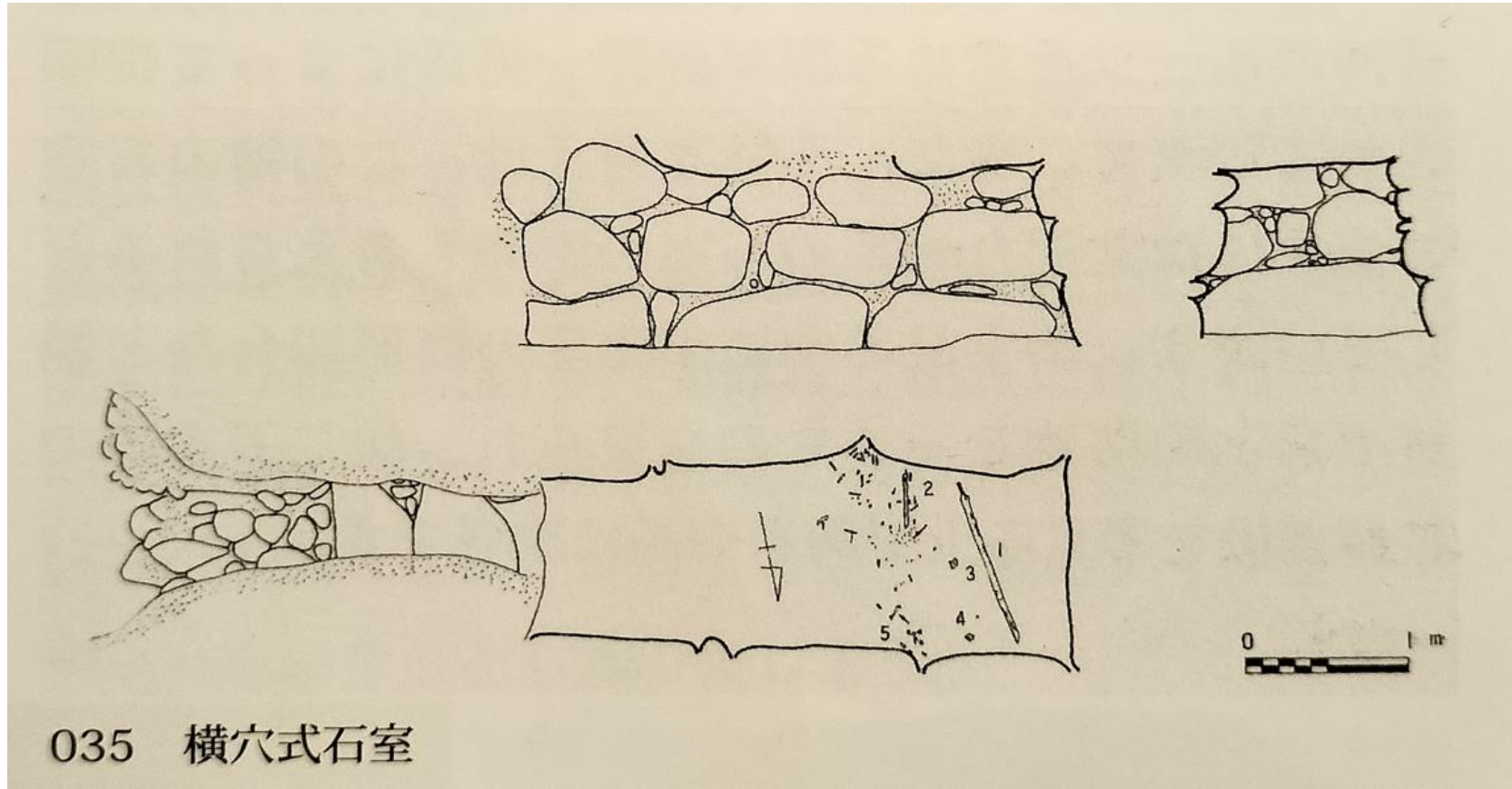
所在地	伊勢崎市赤堀町五目牛 字北通 82（墳丘が現存）
形式	<b>前方後円墳</b>
大きさ	墳長2.6m、前方部幅1.3m、前方部高さ1.8m、後円部径1.6m、後円部高さ2.5m 主体部は自然石乱石積の袖無型横穴式石室（全長5.6m、幅1.35m、高さ1.25m）
築造年代	6世紀初頭。「 <b>堂山古墳</b> 」と書かれることもあるらしい。
出土品	器財埴輪、倚座人物埴輪、玉類、鉄鏃、鉄刀、刀子、馬具、大刀形埴輪、鈴杏鏡、轡、鉄片など。 墳丘には埴輪の配列あり。
発掘調査年	1980年





令和6年度高崎市観音塚考古資料館第34回企画展 図録より





令和6年度高崎市観音塚考古資料館第34回企画展 図録より



